



PRESS RELEASE

平成 29 年 1 月 18 日

報道機関 各位

東京藝術大学
学長 澤 和 樹

【東京藝術大学×SOMPOホールディングス】産学連携プロジェクト Diversity on the Arts Project（通称：D o A（ドア））の開始について

この度、東京藝術大学において、SOMPOホールディングス株式会社（以下「SOMPOホールディングス」）との連携の下、本年4月から「芸術×福祉」のコラボレーションにより、社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）※に寄与する人材の育成・輩出と、多様な人々が共生できる社会環境の整備を目指す『Diversity on the Arts Project（通称：D o A（ドア））』（ディレクタ：日比野 克彦美術学部長）を開始することについてお知らせいたします。

※社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）とは、高齢者や障がい者の方などの社会参加の機会を増やし、地域社会の一員として、互いに支え合う考え方

この取組は、文部科学省「国立大学機能強化事業」の一環として実施するものであり、本学では、「ダイバーシティ（多様性）」を基軸として、人々が互いに人格・個性を尊重し合い、共生する社会を実現すべく、芸術の持つ力を活かした諸活動を全学的に推進しているところですが、本取組では、昨今、多様な文化的な背景を持つ「人與人」、「人と地域」を結びつけることのできる人材に対する社会からの期待や人材養成ニーズ等の高まりを受けて、産と学、各々が有する、文化・芸術に関するノウハウや介護事業に関するリソース等を最大限に活用し、人材育成を通じて地域コミュニティの活性化に繋がる取組を実行してまいります。

詳細は「別添資料」を参照いただければと思いますが、具体的には、「芸術×福祉」の視点を軸として、多様な人々が共生できる社会環境を創造する人材「コミュニケーション・クリエイタ」の育成を行うとともに、本学近郊の谷中エリアに、民家を改修したDoAの拠点を開設し、人材育成を通じた地域コミュニティ活性化の取組を推進するものです。

本取組において開設される講座は、芸術や福祉に関する知識の習得に加え、高齢者や障がい者などの社会的弱者の個性を尊重しながら社会参画を促すコミュニケーション力の養成を目指すものであり、学校教育法に規定される「履修証明プログラム」として、所定の要件を満たした場合には履修証明書を発行するなど、産学共同による実践的・体系的な人材育成プログラムを提供します。

本取組を契機として、本学とSOMPOホールディングスでは、今後更なる連携強化を図ることとしており、福祉分野以外への展開も視野に、『Diversity on the Arts Project』を発展させていくことにより、多様な人々が共生できる社会環境を創造するコミュニケーション・クリエイタの育成および多様な人々が共生できる社会環境の整備に貢献していく所存です。

関係各位におかれましては、引き続きご支援の程何卒宜しくお願いいたします。

<本件に関するお問い合わせ先>

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8
国立大学法人 東京藝術大学

美術学部事務長 香取

TEL : 050-5525-2111

FAX : 03-5685-7765

E-mail : katori@off.geidai.ac.jp

2017年1月18日

国立大学法人東京藝術大学

SOMPOホールディングス株式会社

【東京藝術大学×SOMPOホールディングス】産学連携プロジェクト

Diversity on the Arts Project (通称：D○A)

～「芸術×福祉」による人材育成を通じた共生社会づくりへの貢献～

国立大学法人東京藝術大学（学長：澤 和樹、以下「東京藝大」）と SOMPOホールディングス株式会社（グループCEO取締役社長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）は、2017年4月から「芸術×福祉」の視点で、^{しやかいてき}社会的包摂（^{ほうせつ}ソーシャルインクルージョン）※に寄与する人材の輩出と、多様な人々が共生できる社会環境の創出を目指す『Diversity on the Arts Project（通称：D○A）』（ディレクタ：日比野 克彦 美術学部長）を開始します。D○Aでは、芸術の特性である「個性を魅力とする価値観」と、福祉の「その人の立場に立って行動する思考」を重ねながら、多様な人々が互いを享受し、共生していく環境を創造するコミュニケーション・クリエイタの育成を行います。また、東京藝大近郊の谷中エリアにD○Aに必要な情報をリサーチし、試行、実習していく場所として、民家を改修した拠点をつくり、D○Aを発信していきます。

東京藝大とSOMPOホールディングスは、D○Aを通じて、多様な人々が共生できる社会環境を創造するコミュニケーション・クリエイタの育成と多様な人々が共生できる社会環境の創出に貢献していきます。

※^{しやかいてきほうせつ}社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）とは、高齢者や障がい者の方などの社会参加の機会を増やし、地域社会の一員として、互いに支え合う考え方をいいます。

1. 目的および背景

高齢者、障がい者などの社会参加が求められる現代において、「人と人」・「人と地域」を結びつける仕組みや人材が必要とされています。東京藝大とSOMPOホールディングスは、現代における新たなアートの役割を創出するとともに、様々な異なる背景の人々が共生できる社会を築き、豊かな文化を育み築いていく基盤を形成していくことを目指します。また、単に芸術や福祉に関する知識の習得を目的とするものではなく、高齢者や障がい者などの社会的弱者の個性を尊重しながら、それらの人々が持っている力で、社会に参画できる環境を創造し、このような環境づくりを実践できる人材の育成を目指します。

2. 具体的取組みの概要

(1) 東京藝大に「芸術×福祉」を実践的に習得する講座を開講

2017年度から東京藝大に「芸術×福祉」を実践的に習得する講座を開講します。講座は、東京藝大でのアート・コミュニケーションの基礎を学ぶ講義をはじめ、SOMPOホールディングスの介護事業子会社の専門性の高い職員による講義や介護施設および介護研修施設の場を活用した実習などを行います。また、東京都美術館と東京藝大が連携して行っているアート・コミュニティ形成事業とも連動した講義も行います。

なお、本講座は学校教育法に基づき文部科学省が定める履修証明プログラムとして開講し、120時間以上の講座受講など所定の要件を満たした受講生には履修証明書を発行します。講座の詳細は、1月27日に東京藝大のホームページに募集要項を掲載予定です。

(2) 「芸術×福祉」の実践・リサーチの場としてD^ド・A^アの拠点を設置

多様な人が交流できる場として、東京藝大近郊の谷中エリアに民家を改修したD^ド・A^アの拠点を設置します。ここでは東京藝大のスタッフやコミュニケーション・クリエイタが常駐し、子供から高齢者まで地域住民が出入りできる場として、D^ド・A^アの目指す姿を実践しながら探っていきます。

【参考】施設におけるトライアル実習の実施

本講座ではSOMPOホールディングス介護事業子会社の施設において、ご入居者それぞれの個性を尊重したアート・コミュニケーション実習を実施していきます。本年4月からの開講にあたり、昨年11月と12月にSOMPOホールディングス介護事業子会社の施設において、トライアル実習を実施しました。トライアルでは、心理療法を取り入れ、入居者の方々と共に雪の結晶をイメージした折り紙などを作成しながら、クリスマスやお正月の思い出を語り、これまでを振り返りながら、新たな形を生み出していました。

《コミュニケーションに焦点をあてたトライアル実習の様子》



【日比野 克彦 美術学部長の経歴】

≪ディレクタ：日比野 克彦 美術学部長（アーティスト）≫

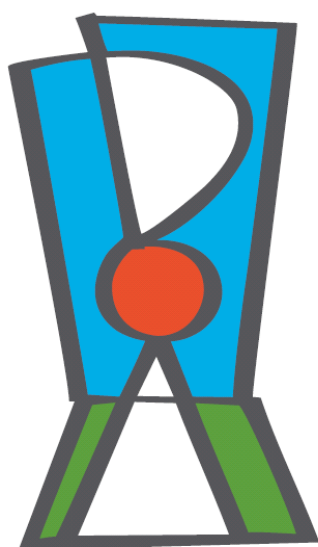
1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学美術研究科大学院修了。

1982年日本グラフィック展大賞受賞、ダンボールを素材とした作品を様々な媒体で発表する。1995年ベネチアビエンナーレに参加。1995年東京藝術大学助教授就任。

1998年より茨城県守谷を中心にHIBINO HOSPITALを展開、2003年より新潟を中心に全国で明後日朝顔プロジェクトを展開、2015年よりTURNを展開。

現在、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授、東京藝術大学美術学部長。

【D○Aのシンボルマーク】



以上

<本件に関するお問い合わせ先>

国立大学法人東京藝術大学

美術学部

事務長

香取 治

(電話：050-5525-2111)

SOMPOホールディングス株式会社

CSR室

課長代理 山下 智也

(電話：050-3808-2611)

広報部 広報グループ

課長代理 中村 周

(電話：03-3349-3722)